

発を行っています。



▲町内パレードに出発する消防車

また期間中は、町では防災行政無線を使い「火災予防運動週間」の周知やサイレンを吹鳴し注意喚起を行っています。消防団では各部で消防車を使った夜間のパトロールを行い、警戒に当たっているところです。

全国的な火災予防運動は、春と秋に実施されていますが、本町では先ほど申し上げたとおりの防火啓発活動を、どちらの運動週間でも実施しています。

②火災警報器については、平成23年5月末までに住宅

用火災警報器の設置が義務付けられ、本町では安心・安全な町づくりの観点から、普及・啓発を兼ね、平成21年5月から6月にかけて、町内約2600世帯に無償で配付・設置しています。

設置から10年経過した令和元年6月議会で、機器の電池寿命や機器の点検を危惧される一般質問をされていますが、町報で各家庭での機器の点検等をお願いしています。

また、本年6月には、法施行から12年が経過したことを受け、佐賀県消防長会が住宅用火災警報器の普及啓発キャンペーンを実施しました。このキャンペーンで各家庭において警報器の設置・点検を各自で行っていただき、不具合があれば機器本体の交換を行うよう、啓発していただいています。

**町長が唱える「オンリーワンの町づくりに挑戦」の具体的中身について(町民に、夢と希望を与える構想はあのか)。**

江口 正勝

**議員** ①なぜ今、オンリーワンなのか。最近、複数の町民から「オンリーワンって何、何をするつもり」という質問をよく聞く。

②オンリーワンの必要要件としては、特産物、観光資源、他の自治体にはない行政サービスなどの「特徴」が考えられるが、大町町は何を売り物にするのか。

③10年後、20年後の大町の姿をどのようにイメージし、どういう方向へ導こうとしているのか。

**町長** 私が申し上げたことは、「付託された、これからの任期、4年間」の中で、政治活動、さらに言えばライフワークとして、私が考える町づくりを進めていくうえでの構想と心構えを示したものです。

一つ目が、「町民の安心、安全な暮らしを守る」。二

つ目が、「町の活性化と産業振興を更に進める」。三つ目が、ご質問の「新たな魅力と、ブランドづくりによるオンリーワンの町づくりに挑む」と、訴えさせていただきました。

このようなことを踏まえ、私がスローガンに選んだ「オンリーワンの町づくりへの挑戦」というキャッチワードに、異を唱えられなくても議論するつもりはありません。

任されているのは1期4年間です。「10年20年後の大町町」を、個人的な考えで根拠もなく無責任に公の場で語り、どこかに導く立場ではありません。

**町立病院廃止の総括(検証)と跡地の活用について(町民は、真実と現状を知りたい)**

**議員** ①誰が得をし、誰が損をしたのか。町立病院廃止という町民の健康と生命に関する重要な案件だったので、やはり議会でも総括

が必要と思ひ質問する。町民にもわかる形で、総括(検証)をお願いしたい。

②跡地の現状について 町民の利便性を考慮して診療所として残すとの話だったが、今は完全閉鎖。

跡地は、新武雄病院から無償で頂いたとの話もあるが、現状はどうなっているのか。大町の所有物か。

③将来の活用について リハビリテーション病院とかに特化して有効活用する道はないのか。もし、壊すなら解体費用はいくらを想定しているのか。解体後は、何に使うのか。

**町長** 大町町立病院の経営移譲につきましては、我々、当時の議員を含めて、政治生命をかけて真摯に真正面から向き合ってきました。

結果、賛成7、反対2でご承認をいただき、平成29年3月に一般社団法人へ経営を有償で移譲しています。

賛成、反対、いずれの判断にしても、議会の議決を重く受け止めており、総括・